

平成30年度 山形県山岳連盟 登山部研修会（兼）冬季指導員研修会報告書

指導委員長 菅野享一

実施日 平成31年2月23日(土)～2月24日(日)
場 所 Asahi 自然観 山形県西村山郡朝日町白倉 745-1
出席者 14名 (内指導員12名)

<1日目>

13:00から開会式を行い山形県山岳連盟伊藤会長より挨拶をいただいた後、吉田副指導委員長より日程説明があり、13:20から菅野登山部長による山岳遭難事故対策を目的とした「夏山リーダー」養成に関する座学研修が行われました。

その後指導員総会を開催し、指導員会、自然保護の各担当及び競技部からの事業報告と情報伝達があり、後半には「組織活性化の手立て」について意見交換を行いました。

<項目別概要>

座学研修では、これまで日山協に所属する団体や会員を中心とした登山教育であったが、未組織登山者の安全登山教育を本格的に実施し事故防止の抑制策として、国際的な資格に準拠した内容で、平成30年度から「夏山リーダー」制度に取り組むことになった経緯と今後指導員資格との関わりについての説明後にパワーポイントを使って講習内容の確認を行いました。

指導員総会では、平成30年度の事業経過及び決算報告後各担当からの報告があり、菅野指導委員長からは、平成30年度に於ける、日山協の「夏山リーダー」講習会の取り組み、指導員制度改正により「指導員」から「コーチ」への名称変更、スポーツクライミング競技に於ける審判員資格の制限、県岳連の活性化対策についての取り組み経緯と、平成31年度に予定している山岳コーチ養成講習会の進め方や中央研修・講習会等への参加案内があった。

また、3月16日に予定されている県岳連総会に向けて指導員会規程の見直しについての説明がありました。

自然保護委員会の高取副部長からは、昨年埼玉県で開催された全国自然保護委員会議の報告資料を基に、各山域に於ける荒廃状況や登山道、トイレの現状、自然保護活動の継続に向けた次世代育成プロジェクト、携帯トイレの利用拡大への取り組み、希少動植物の保護活動、視察登山での実地体験などについて紹介されました。

競技部からは、齋藤副部長より2018年度の競技実績報告と2019年度の競技大会計画について報告があり、山形の工藤花さんが昨年の世界大会（ユースB女子）のボルダリング競技で3位に入賞したことが話題となったこと、県外コンペへも積極的に参加していること、指導者育成面では審判員の更新研修に参加しており、現在県内スポーツクライミングの指導員数は4名であるが、10月に上級スポーツクライミング資格者が1名増えることや、平成30年度から子供たちを中心に岩場でのボルダリングや沢登りの体験を実施し父兄の方にも楽しんでいただけてきていること、小中学生のコンペを開催し将来の選手育成につなげていきたいとの報告がありました。

本田部長からは、2020年は東北総体が山形で開催されるので準備している。競技形態はコンバインド（スピード・ボルダリング・リード）による競技が主流であったが、最近は個々の競技や2種競技も開催されるようになってきている。

また、ボルダリング等気軽に楽しめる施設が人気となっており、指導者はいないがホームセンター内の空きスペース等へ人工壁を設置する例も全国的に広がってきているとの報告がありました。

県岳連事務局からは、3月16日に評議員会総会、常任理事会が開催されるが、役員改選の時期となっており多数の出席についてのお願いと、制度改革で競技審判員の負担増加により指導者離れが危惧されること、活性化アンケートの提出要請等がありました。

「組織活性化の手立て」についての意見交換では、昨年12月に県岳連加盟14団体へ実施した活性化に関するアンケート調査結果を基に参加者からの意見や提案について話し合われました。

はじめに、実態調査も兼ねたアンケートの提出団体は約半数でしたが、会員の高齢化による活動の制約や入会者の減少、組織の一員としての責任や負担への増加等それぞれ似たような課題を抱えていることを確認した後、参加者からは、以前から課題となってきた「趣味の登山」と「スポーツ競技団体」が共合する中でいっそう負担が増えてきていることや、「夏山リーダー制度」や「指導員養成事業」への期待について等幅広い意見が出されました。

<参加者からの意見>

- スマホでの地図アプリやGPS機能の活用によって登山環境も変化してきており一人でも登れる環境になってきている。しかしながら機器が故障した場合は読図の技術が必要であり、組織に入るメリットとして基礎知識や技術を習得できるといったことをアピールしていかなければならない。
- さまざまな課題が出されているが、その根底にあるのは、「競技団体」であることと、「趣味の団体」であるという二つの性格が合わさっていることが大きな要因である。
- 純粋に趣味の山登りに「競技登山」はあり得ない。
- 会費の問題であるが趣味の団体で30,000円を出しても所属したいという人もいるので、意識の違いだが出来るだけ負担軽減も必要。
- 山形県山岳連盟は解散して全て個人会員で別のものを立ち上げたら良いのではないか。
- 恩恵は何かを考えたときに、岳連という組織を加盟団体でないと維持できないというのを、個人会員で解決出来ないか。
- 他の団体や会員を網羅した、県全体としての例えば「山形山岳スポーツ協会」として組織化する努力をしていかないと魅力の有る会につながらない。
- 長野県の北アルプスでは事前に計画書を出さないと入山出来ない、ヘルメットも装着しないと登れなかった。山形県若しくは市町村で条例をつくって規制誘導しないと未組織登山者の事故防止につながらないので、「夏山リーダー」の資格を利用した入山規制も必要かもしれない。考え方も大きく変えないと今の現状は変わっていかないだろう。
- 個人で山を楽しんできた若い人たちが、ここ三年前くらい前から9名入会してきている。組織活性化の底辺は単位山岳会なので未加盟団体や以前に加盟していた団体の勧誘も必要だ。
- 会員の安全登山については、講習会、研修会への参加費を補助し帰ってから伝達講習を行っている。
- 指導員資格取得することで競技への関心も出て組織強化につながるのではないだろうか。
- 特に若手会員の確保については、登山技術の習得を目的とした入会希望の方もいるので、意欲のある若い人の育成をしていきたい。
- 会活動としては独自企画による低山登山を計画し荒れた登山道整備を行って市民登山をしたいと考えている。
- 高校で山岳部の在るところも少なくなってきており、監督もやったがクライミングと山岳は両立できないと実感した。
- 生徒は勉強時間も必要なので、山岳活動とクライミング活動をやるのは一年間やってきて無理と感じた。
- 担当となった方にどうやって山を好きになってもらえるのか、頼まれ顧問が事故にあった場合の

責任や代償を考えると、部活動としてどこまでやるのか難しい。

○高体連で県岳連の活性化にどう関わっていくのかについての答えが見つからない。

○いろいろな大会へ選手として参加するために団体に所属しているが、競技に参加するだけで、自分が楽しむ考えの方が多く組織会員としての自覚が薄いので、選手をした人もモチベーションが下がると去ってってしまう傾向がある、声掛けはしているが選手を引退したら大会運営に携わってくれる人が少ないのが悩みである。

○将来につなげるため子供たちを中心にクライミング教室や親子行事等を計画し普及活動をやり始めている。

○岳連や加盟団体に加入することに関してのメリットについては、資格制度を活用した入山規制等も考えられる。

○若い人に入ってもらうことで活性化につながり、年配の方も遣り甲斐が出るし雰囲気も違ってくるので相乗効果が期待される。

○若い人が入る動機はスキルアップの目的が大きいので、それに応えられるかどうかとそういう人を発掘出来るかどうかなので、中堅の方々の頑張りどころだと思う。

○若い人の趣味も様々なので、取りつきやすいのは登山技術やロープワーク等に興味を持ってもらうことや植生や民俗学的なものでも良いので魅力を出して働きかけていく努力が必要だと思う。

○単独で登山をしてきたが、山岳会に入ったきっかけは登山道の整備に興味を持ったことと、個人での安全登山に関する技術にも限界があり、組織に入って基礎を学び登山に対する心構えという観点から入会した。

○今はインターネットでのツールを利用したの登山も可能なので、ただ山に登りたい人は山岳会には入らないと思う。

○動機は其々だが整備活動をしたい、技術を身につけたい、山小屋管理をしてみたいというような何かをやってみたいとの目的もあるようだ。

○山小屋での楽しかった思い出や人とのつながりが入会に結びつくようで、会員の中には県外者もあり其々の交流も楽しいし世界が広がるので、入るメリットは「おいしい酒も飲めるし、技術も学べる」ことをもっとアピールしてはどうかと考える。

○これまで NHK の登山教室を開催してきたが、終了後も毎月 1 回登山を継続してきている。当初は 10 名程度であったが最近 20 を越してきている。

○会員の平均年齢は 65 歳くらいで、最近入会した人は定年を迎え山に登ってみたいが経験や技術も無いので会に入って連れて行ってもらいたいという方や若い時には登ったが子育てでブランクがあり最近また始めたが、技術を身につけたいとのことから入会された方が多い。

○中高年になると潜在的に山に登りたいという方も多く、年寄りも山の賑わいではないが、まず会員が楽しくやっていることが大切、他から楽しそうだとみられるような活動をしていくことが必要。また、楽しいだけではなく、ためになるというふうに思われればおのずと声を掛けてくれるだろう。

○指導員の参加が少ないということが、活性化のバロメーターにつながっていると思われる。その手立てについては、「夏山リーダー」制度もひとつの方法で、指導員が頑張れば活性化も少しずつ改善されてくるのだと思う。

○指導員間の連絡不足があるのではないかと、お互いのスキルアップや情報共有の面からネットを使った情報交換の場をつくるのが大切。

○山岳会という組織に入ることにもためらうことも多いが、登山行動で寝食を共にすることでどういう会なのか、どんな人が会員なのかということも分かる。単位山岳会の活性化がひいては県岳連の活性化に反映するのだと思う。

○入会動機は誰誰が居るからとの理由が大きい、その人柄や山に対する姿勢、生きざまに共感した人が多く入会した時期があった。共感出来る人と登りたいというのが始めにあって、それが会の活性化につながるかどうかは分からないが人は人つくのではないかなと思う。

○会員が少なくなると運営が苦しくなるので活動に参加しない人にも連絡をとりつながりをもつことが重要で情報の共有を図るようにしている。最後には人間関係だと思う人間関係が維持できないとやめて行くと思う。

○組織を維持するうえで繋がりを持つことは大切なことだと思う。SNSの時代で簡単に繋がるけども簡単に切れる、相対で空間を共有することで繋がりも深くなるのだと思う。

○加盟団体の活性化も必要だが県岳連についても組織改革による活性化が必要と考えている。昨今は特にスポーツクライミングのウエイトが高くなってきており、山形県山岳連盟の場合は殆どがアルパインなので、ここにミスマッチが生じてきており、辞めるというのではないが、日本山岳・スポーツクライミング協会との関係も見直しが必要と考えている。

<清野顧問より>

まとめというのではないが、県岳連の改革が個人にしる団体にしる、日本山岳・スポーツクライミング協会との関係にしてもいろいろな意見が出されたが、拒否するのではなく、前向きに議論を重ねる必要がある。

県岳連の活性化を図る上で加盟数を増やすという努力を惜しんではいけないし同時に活性化したいという県岳連の目標を明確にして、「何を」「どうしたい」のかもう少し具体的に絞る必要があるのではないかと、加盟団体の会員数減少や若い人が居なくなったことが県岳連の活性化衰退につながるという方程式は分かるが、単位団体では会員数を何人増やす、県岳連では加盟団体をいくつ増やすという目標や県民登山大会も良いのだが、時限を低くして、山や花、山岳文化等に興味を持って県岳連としての幅を広げて、そうした事業の発掘も必要なのではと思った。

折角ここまでアンケートを取ったとすれば、目標を持った外郭団体では現状を捉えて反省してと言われてきているが、そういう順序、たたき台を作ってみて、さらにそういうものに踏み込んでみてはどうかと思う。

昔から課題となっている「競技団体」と「趣味の団体」が一緒だという事が後々もネックになってくるのだと思う、オリンピックを控え益々負担が増えることが想定され、全国でも山形県は中間クラスなので半数がそれ以上の負担を強いられている状況も考えられる。

今後中央競技団体がどういう判断、かじ取りをしていくのかが大きなことなのだろう、三月の年度終わりだからと通り一遍で終わるのではなく継続して掘り下げてみるべきだと思うし、特に思うのは、県岳連の将来をどうするという話を60、70になった人が議論しても始まらないので、若い人にこういう議論をしてもらいたい。



H30 年度登山部研修会（兼）冬季指導委員研修会
2 日目「実習・実技研修」報告

副指導委員長 吉田 岳

＊参加者：伊藤吉樹会長、阿曾清浩副会長、清野孝顧問、池田久浩、斎藤昌之、菅野享一、高取和彦、高橋清徳、田中正浩、吉田岳

8 時半、朝日自然観玄関前に集合。ミーティングを行い今日の日程を確認した。最初の研修は読図から。地図とコンパスを使い、目指すサイヅチ峰の同定作業。コンパスの使い方の再確認を行った。そして準備体操の後出発。まずはスキー場の端を 30 分ほどかけて登っていった。

ゲレンデは尾根筋まで続いていて、ゲレンデトップからは早速月山や村山葉山、奥羽山脈の山々などを見ることができた。高取さんより山の説明をしていただいた。ここでかんじきを装着し、かんじき歩行の実習。但し、放射冷却で堅雪になっていたためかなり順調に歩くことができた。踏み跡が少し残っており、雪山トレッキングの入門コースとして人気があることがうかがえた。

今日は厳冬期としてはめったにない好天気。そのため、技術研修というよりはトレッキングを楽しみ、山頂までたどり着くことを目的とした。ペースには若干差が出たが、脱落者もなく皆さんいいペースで歩くことができた。

途中の休憩時や歩きながら樹木学研修を行う。落葉樹の高木としてはブナ、ミズナラ、オオヤマザクラ、ハウノキ、トチノキ、イタヤカエデ、ヤマモミジ、ウダイカンバなど。針葉樹ではスギ、クロベ（ネズコ）。灌木はナナカマド、ウリハダカエデなど。関心を集めた事としてまずはカンバ類にはシラカバ、ダケカンバ、ウダイカンバの 3 種類があること。針葉樹としてはスギとマツだけでなくヒノキの仲間やモミ・トウヒの仲間もあって、葉の形などが違うこと。よく雪面に落ちている乾燥したアジサイの花のような物はツル性のツルアジサイかイワガラミで、ガクの数で違いが分かることなどであった。鳥類としてはカラ類やマヒワなどが見られた。

快晴無風、かつ気温もそれほど上がらない好条件の中歩き続け、11 時全員無事サイヅチ峰に到着した。山頂で各々写真撮影を行い、展望を眺めながら休憩。ここでも高取さんより 360 度見渡せる山々の解説をいただいた。最後に全員で記念撮影を行い、11 時半下山を開始した。

下りは途中の登り返しの手前で下手の林道に下り、別ルートをとった。ただしこのルートは雪崩の危険性もあり、積雪の状況を見てルートを判断しなければならないことを確認した。ゲレンデの中腹をトラバースし、1 時間強ほどで自然館に到着した。

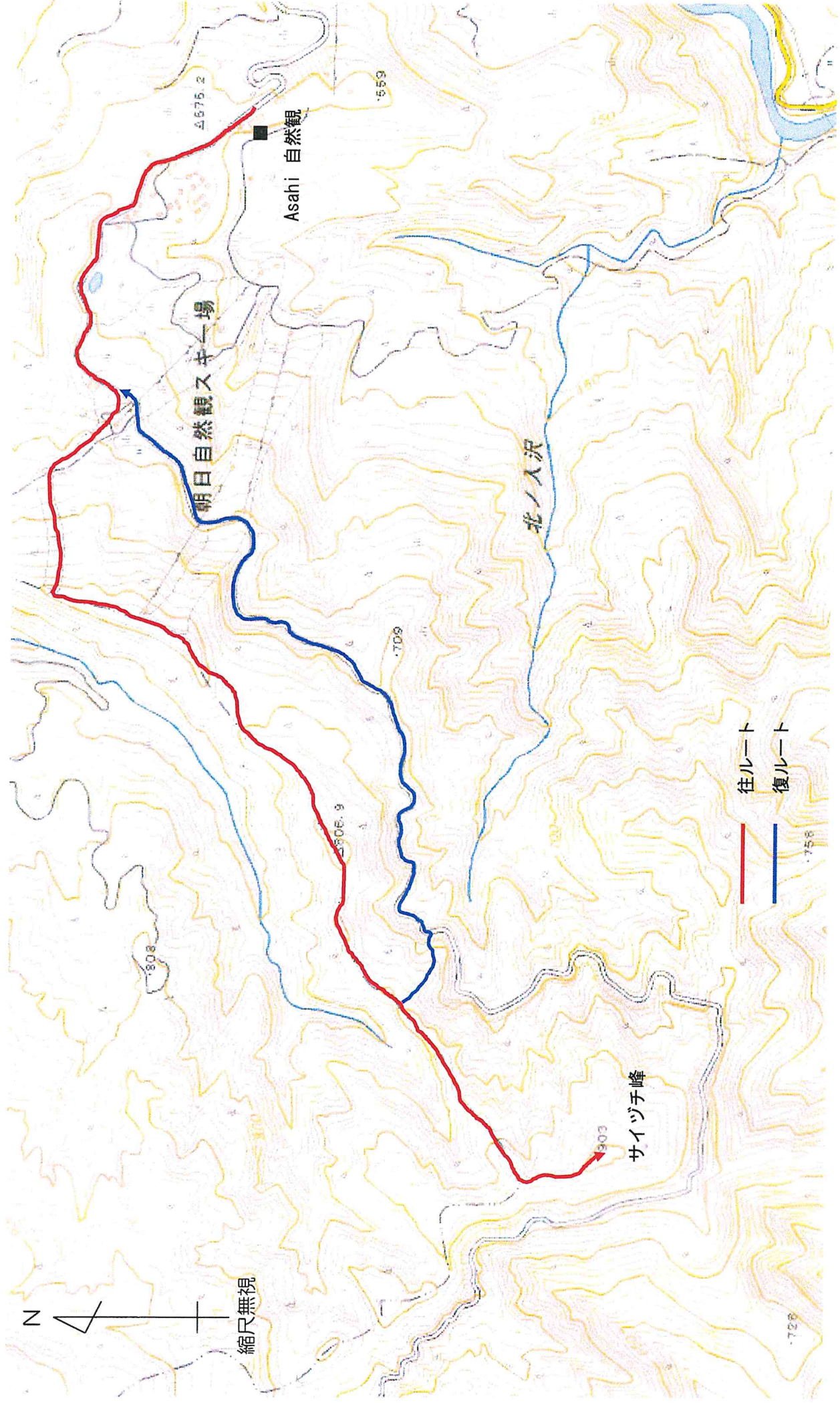
今回は時間の都合上ロープワークや登山ギアを使った技術訓練を行うことができなかったが、実際の雪山登山を通して様々な基本的な知識の再確認ができ、雪山登山の楽しさを実感できたことは良かったと思う。登山技術は日々進化しており、覚えなければいけないことがたくさんあり、また機会を見つけて技術的な研修会を開きたいと思う。

参加された皆さんお疲れ様でした。また段取りいただいた幹事の皆様、お世話いただいた地元会員の皆様、大変お世話になりありがとうございました。



ルート図

2019. 2. 24



平成 30 年度 山形県山岳連盟の活性化に関するアンケート調査結果

調査期間 2018.12.22～2019.1.31

対 象：県岳連加盟 14 団体 （内回答 6 団体）

（鶴岡山岳会・八幡山岳会・東根山岳会・寒河江山岳会・山形山岳会・山と雪の会・大江山岳会・べにばな霞城山の会・南陽山の会・長井山岳会・岳人長井・小国山岳会・アクションパーク米沢・高体連登山部）

1. 現在の組織体制等について

1) 団体名 仮名 2) 平成 30 年度現在会員数

団 体	会員数（人）	男性	女性
A	25	18	7
B	29	20	9
C	19	17	2
D	16	13	3
E	50	46	4
F	33	33	0

3) 平均年齢

団 体	平均（歳）	最小齢	最高齢
A	71	30	83
B	56	44	88
C	56	33	90
D		56	80
E	61	33	87
F			

4) 団体発足日 5) 発足時会員数 6) 会 費

団 体	発足日	会員数（人）	年会費（円）	入会金（円）
A	1960（S35）.09.17	14	3,000	3,000
B	1932（S07）.09.18	11	3,500	500
C	1954（S29）.02.06	10	3,000	3,000
D	1982（S57）.10.15		6,000	3,000
E	1982（S57）.04.12	12	5,000	2,000
F				

7) 公認指導員数

団 体	AC 指導員	AC 上級指導員	SC 指導員	SC 上級指導員
A	—	—	—	—
B	—	6	—	—
C	—	—	—	—
D	—	—	—	—
E	1	8	—	—
F				

2. 貴団体の活動状況について

1) 主な活動内容（事業名）及び実施時期をご記入下さい。

- ・ 冬山合宿 1 月
- ・ 葉山清掃登山 9 月
- ・ ゴーデンウイーク登山 5 月
- ・ 遠征登山（県外） 9 月
- ・ 山荘小屋開き 6 月
- ・ 温泉の旅（県外） 10 月
- ・ 登山道草刈 7 月
- ・ 山のうんちくを語る会 11 月
- ・ スノートレッキング 3 月
- ・ 山荘小屋納め雪囲い 11 月
- ・ 飯豊・朝日連峰保全活動への参加（9 月）
- ・ 山小屋管理（6 月～10 月）
- ・ ロッジ管理中早朝登山口での安全指導
- ・ 町民登山（2 月）
- ・ 技術訓練（2 月）
- ・ 登山道整備
- ・ 例月登山としての定期的な会員による登山をほぼ毎月計画
- ・ 東根市の委託事業。登山道草刈 7 月、山小屋清掃 9 月、山小屋雪降し 2 月
- ・ 一般参加者を募集しての登山。雪山トレッキング 3 月、夏山登山 7 月
- ・ 各地区大会（5 月、9 月）、県大会（6 月、10 月）、指導者研修会（1 月）
- ・ 5 月葉山民衆登山 6 月祝瓶山山荘開きと吊橋の板掛け
- ・ 7 月祝瓶山登山道整備（刈払い）
- ・ 9 月熊野山登山
- ・ 10 月祝瓶山市民登山
- ・ 11 月祝瓶山山荘閉じと吊橋の板外し毎月 1 回のミーティング
- ・ 月例登山 月 1 回

2) 会員募集方法（対策）等はどうしていますか。

- ・ 会員の勧誘、推薦
- ・ 小国山岳会の活動参加者に対する勧誘
- ・ 会員からの推薦紹介
- ・ 山岳愛好者に対する勧誘
- ・ 会員による勧誘活動

- ・一般募集登山時の参加者への勧誘活動
- ・毎年の登山事業で勧誘をしている
- ・声掛け

3) 安全登山の為の講習会（研修会）等を行っていますか。

- ・研修会は近年開催していないが、活動中に指導している
- ・会ではトレッキング程度のイベントしか行っていない
- ・技術訓練の開催及び座学（登山知識）
- ・県岳連研修会、各種講習会への参加
- ・小国町山岳遭難救助隊との合同訓練
- ・ロープワーク講習会等を会内部で実施。年2回
- ・遭難救助訓練への参加等
- ・文部科学省や東北高体連、県教委主催の研修会に参加
- ・一般向けには実施していない。必要な時は会員内で行っている
- ・文部科学省や東北高体連、県教委主催の研修会に参加

4) 会員外の一般者を対象又は交えた活動を行っていますか。

- ・長井市観光課との合同イベント開催
- ・野川まなび館との合同イベント開催
- ・米沢なでら山かんかん渡り 毎年応援参加
- ・2月の雪山技術訓練への参加者募集と訓練の実施
- ・随時登山道整備及び保全活動への参加者募集と実施
- ・町内外の一般者の町民登山への参加者募集と開催及び懇親会
- ・黒伏山への雪山トレッキングを3月に実施
- ・県外に一泊二日の夏山登山を7月に実施
- ・毎年、葉山と祝瓶山登山を実施。熊野山が山形百名山に選定された後は初心者向けとして、一般から参加者を募集して登山実施
- ・鶴岡市民健康スポーツクラブ座学3回/年、山行5回/年
- ・スポーツライミング教室2回/年（小学生・保護者）

5) 課題となっていることはありますか。

- ・将来の山荘管理をどうするか
- ・会員の減少と高齢化で山岳会の運営をどうしていくか
- ・山岳連盟との関りについて
- ・若い人がほとんど入会してくれない
- ・仕事、家庭の事情等で岳連イベントに参加出来る人が少ない
- ・山岳部のある学校が年々少なくなっている
- ・経験のある顧問の先生が少なくなっている
- ・入会者なし

3. 山形県山岳連盟への要望等について

1) 山形県山岳連盟への要望（意見）等がございましたらお聞かせ下さい。

- ・ 会員の高齢化により難易度の高い登山は皆無に近づいている。会の活動参加者も限られて当山岳会活動そのものに危機感が生じている。そのようなことから、現在の県山岳連盟に参加協力できる余力も少なくなっている。連盟の恩恵は感じにくく活性化の必要性を感じています。
- ・ 研修などで講師の先生を派遣していただいております。大変助かっております。

2) 組織活性化に向けた提案等がございましたらお聞かせ下さい。

- ・ 県岳連に加盟しての利点恩恵がなかなか見えていない。山は昔と変わらいいけど、人の生活や関りあまりにも変わってきました。これまでの山を登るという概念と、これから山岳に関わる人の概念が変わりつつあります。魅力のある組織づくりが課題でこれまでも延々となってきましたが、本当に見直しが必要な喫緊の課題と考えます。
- ・ 指導員のみが参加できる高度研修
- ・ 加盟団体への恩恵イベント開催
 - 1 加盟団体のイベント発信と相互協力（夏山・冬山縦走）
 - 2 加盟団体交流イベント開催（キャンプ企画）
 - 3 高齢者向けイベント開催
 - 4 初級者向けイベント開催

※これからの岳連組織を考えると、加盟団体の恩恵を第一に考慮すべき難しい時期が来ていると考えます。岳連に魅力や活力があれば、未加入団体が自ずと加盟をしてくるとは思いますが、何十年も延々と活動している山岳会ですら岳連に加盟しようとならないのが現実です。今後高齢化による加盟山岳会が脱会されることが危惧されます。また、若い世代の新しい山岳会やサークルが加盟してくることを祈念しています。

- ・ 気軽に参加できる企画を増やせば、参加者はすぐに増えると思うが、組織力の強化につなげるのは非常に難しい。良い案は浮かびません。今の若者は組織に属する億劫さが、組織で得られるメリットを上回っているのだと思います。抜本的に組織の構造を変えて、気軽に所属できるようにすれば、すぐに会員は増えると思うが、全国などから降りてくる仕事は消えないので、一部の方が忙しくなることは改善されないと思います。

<調査経緯>

平成 29 年度の第 1 回山形県山岳連盟常任理事会に於いて、加盟団体の高齢化や会員の減少、活動の低迷により山形県山岳連盟の存続も危ぶまれるとのご意見をいただき、組織活性化の手立てについて登山部が主体となって取り組むことになり、今般実態を把握すべくアンケート調査を行ったところです。(団体名は仮名として、原文のまま掲載させていただきました。)

未回答の団体におきましても調査結果を参考に随時提出いただきますようお願い申し上げます。

調査により改めて「必要性」を認識する機会となり少なからず成果があったように思います。お寄せいただいたご意見やご提案をもとに活性化に向けた取り組みについて検討させていただきたいと思いますので、今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お忙しい中ご回答頂きました各団体に紙面を以ってお礼申しあげます。

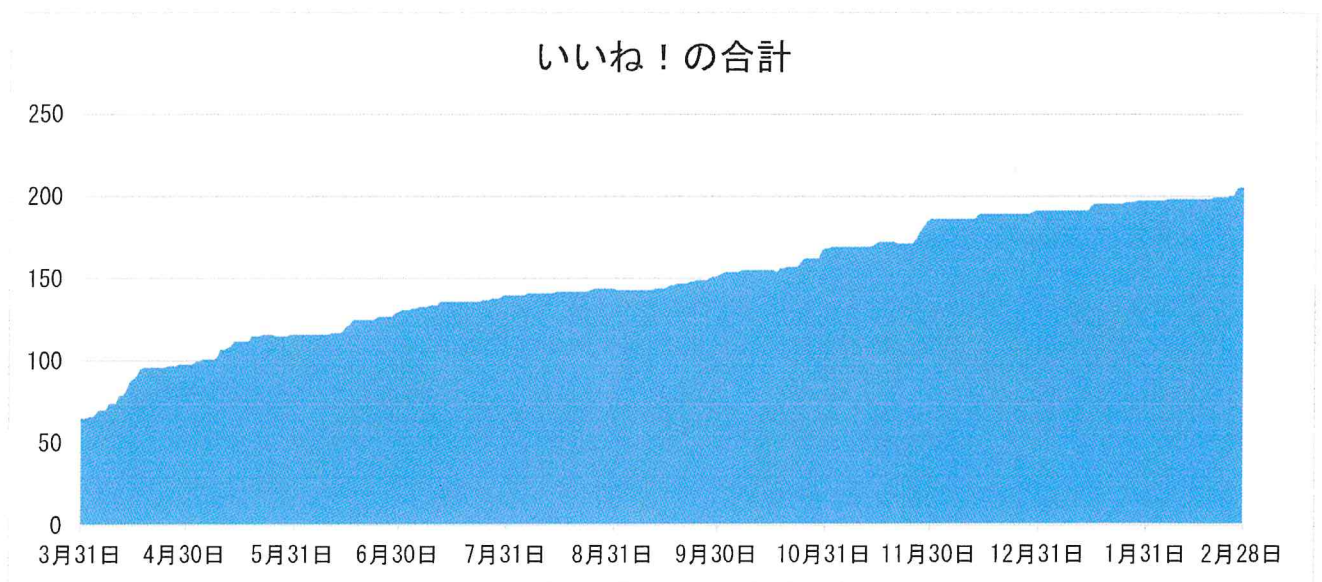
山形県山岳連盟 登山部長 菅野享一

山形県山岳連盟 Facebook ページ運用状況について

平成 31 年 2 月 28 日現在

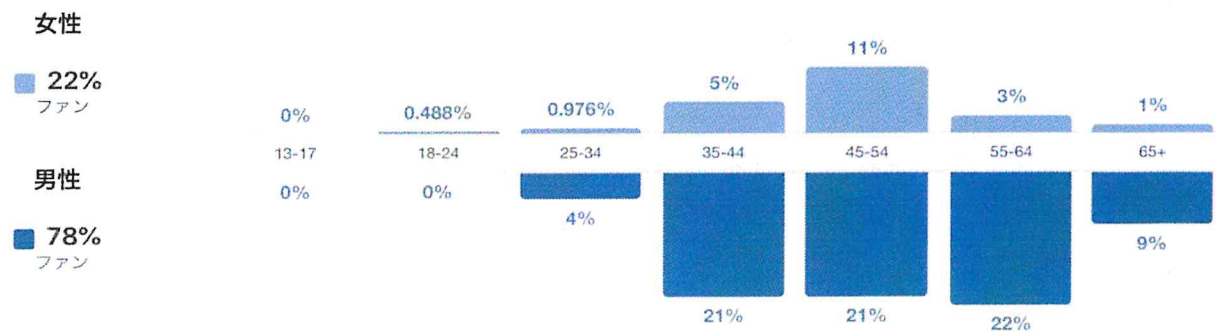
平成 30 年度の総会において承認された Facebook が運用開始され 1 年が経過しましたので、その間の運用状況について報告いたします。なお、データの収集方法は Facebook ページ上からデータを抽出し集計しています。

1. いいね！の合計 205人

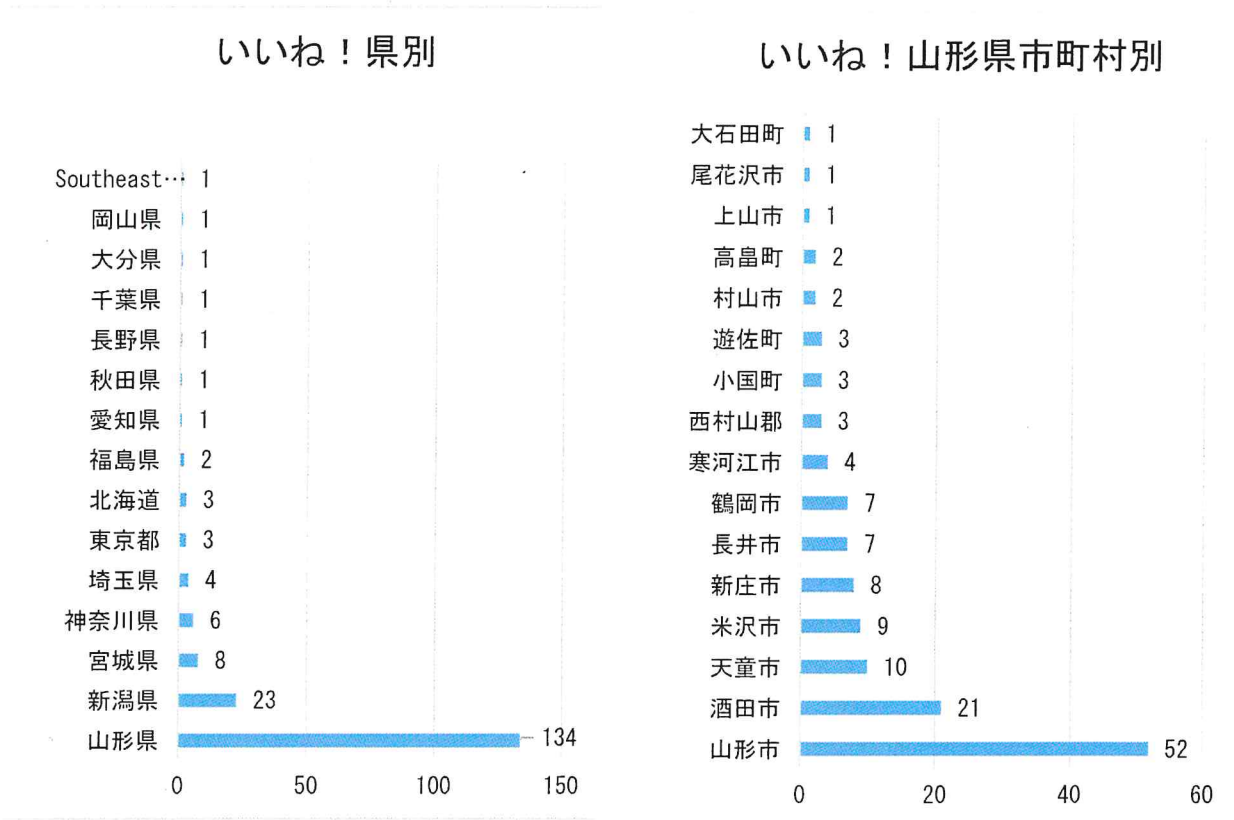


2. 性別は、男性 159 人、女性 46 人。年齢層はグラフのとおり。

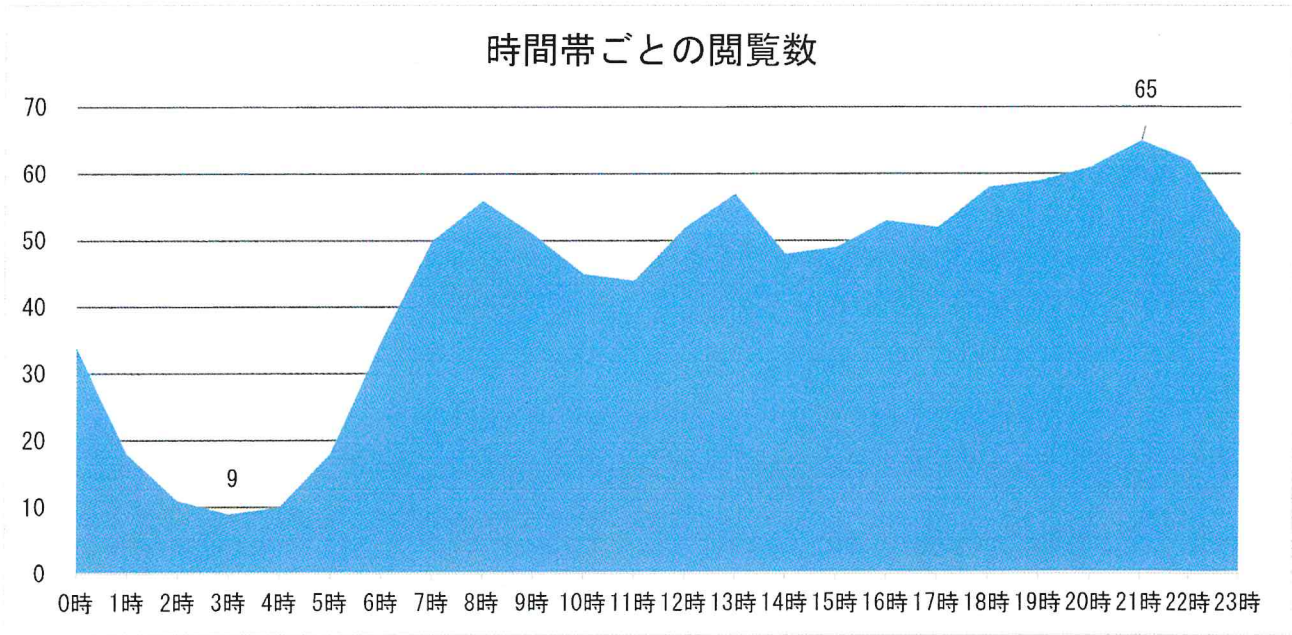
ページを「いいね！」した人の性別と年齢の集計データです。ユーザーのプロフィールに記載されている情報に基づいて集計されます。この数字は推定値です。



3. 都市別では14都道府県、海外？1名で山形県内は山形市52人、酒田市21人、天童市10人他計16市町（西村山郡のみ町名が不明）より計134人



4. 時間帯ごとの平均閲覧数はグラフのとおり。最大数が21時、最少が3時



5. 投稿数 124件

・掲載内容は県岳連主催の事業をほとんど行っていないので、他のイベント案内等のサイトへの誘導、各種会議等の報告に分類されます。

・掲載でいいね！が多かったのは11月26日投稿【にっぽん百名山】飯豊山放送のお知らせで279件、閲覧数が多かったのも同様に2225人が閲覧しています。

※ページ内でのいいね！が多くてもシェアすることによって、見た人の数は大幅に変わります。



この投稿を宣伝して、リーチや「いいね!」、コメント、シェアの数を増やそう。

投稿を宣伝



この投稿を宣伝して、リーチや「いいね!」、コメント、シェアの数を増やそう。

投稿を宣伝

以上